

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690102191
法人名	医療法人 萩風会
事業所名	グループホーム 花蓮
所在地	鹿児島県鹿児島市西谷山三丁目1番10号 (電話) 099-203-0567
自己評価作成日	令和2年9月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い道路に面した住宅街にあり、近くにはJRの駅や商業施設、公園などもあり買い物など利便性がよい
3階建てのビルの2階にホームがある、1階はメンタルクリニックがあり、適宜、専門的な相談も行える、又母体は整形外科で徒歩で2分程度のところにあり、変化時などは随時対応ができるため安心できる入居者の方の生活スタイルやペースに合わせ、思いを尊重し、待てる介護に努めています
職員は看護師が多く、日常の健康管理、変化時の対応を迅速に行えるよう主治医との連携と日ごろの状態をご家族も知って頂けるよう適宜連絡を行い、入居者・ご家族が安心でき、笑顔のある健やかな暮らしができるよう努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は3階建ての2階にあり、風の流れに沿って窓を開閉して外気を取り込んでいる。3階は通所リハビリテーションになっている。日曜、祝日は3階でレクリエーションの時間にあて、気分転換や交流の場としている。
- ・メンタルクリニックが同施設の1階で、近くに母体医療機関があり、職員に看護師が多く、医療的な相談や対応が適切に行われている。
- ・運営推進会議や面会等は、コロナウイルス感染防止への配慮があり、電話や書面で開催している。
- ・事業所は、設立1年が経過したところであり、職員が目標を持って楽しい職場づくりを考えて働いている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている</p>	<p>運営理念「一、家庭的な雰囲気 二、地域とのふれあいを大切に 三、ひとりひとりの腰を尊重」 を下に、事業所目標を立て、毎月のミーティングなどで共有できるようにしている</p>	<p>関連施設の理念を基本に事業所目標を職員で話し合い、地域密着型サービスを大切に、入居者の状態をミーティングで話し合いケアを確認している。理念は玄関に掲示し朝・夕に職員で、振り返りを行い実践している。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会に加入し、参加できる行事を把握できるようにしている、又日ごろ住宅街の散歩のときなど、庭に咲いている花など見て、住民の方と会話している</p>	<p>町内会に加入し地域情報を把握し年間行事の連携をとっている。事業所周辺の散歩や地域住民とあいさつや会話で交流している。今年は、コロナウイルス感染防止の為、ホーム内で過ごす時間が多い。</p>	
3		<p>○事業所の力を生かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。</p>	<p>運営推進会議に町内会長、地区の民生委員の方に参加していたが、地域の困りごとなどはないか話を伺い、お困りの際は相談できるようにしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月毎に運営推進会議を開催、ホームの活動報告や地域の情報を共有、貴重な意見を実践できるよう努めている</p>	<p>コロナウイルス感染防止の為、会議は書面で事前に郵送し、電話等で、入居者の状況・ヒヤリハット・活動報告や状況報告を行い、要望や意見交換をしている。地域の高齢者状況等を提供し、事業所機能を活かすように検討している。</p>		
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議等に長寿あんしん相談センターの方へ出席をしていただき、情報交換を行っている、生活保護の方の相談など福祉事務所の担当の方と連絡を取り合っている</p>	<p>行政窓口にて利用者の状況を伝えたり、介護保険の申請、生活保護課との連携等を行っている。運営推進会議に参加してもらい相談・助言等を得ている。行政主催の研修会に出席し情報をもっている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>毎月のミーティング時や2月に1回の身体拘束廃止委員会を開催、定期的な研修を実施し、介護者も周りも気づきにくいスピーチロックなどの研修も取り入れ、身体拘束をしない介護はどのようにするか話し合い実践できるようにしている</p>	<p>身体拘束廃止委員会を2ヶ月毎に行い、言葉の拘束についても研修している。危険行為や安全が確保できない場合は、職員で対応策を話し合い、拘束しないケアで取り組んでいる。2階のエレベーターは、昇降ボタンが利用者には見えない工夫をして安全を確保している。日中玄関は施錠していない。外出希望の時は話を聞いて、気持ちの落ち着くまで散歩したり寄り添っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的に事業所研修を行い理解を深められるようにしている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>事業所内で周知し、外部研修の機会を得、職員へフィードバックできるようにしている</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居の際、重要説明事項及び契約書の内容について説明、不明点を確認し、それぞれ2部作製、同意の署名・捺印をいただき1部を交付している</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議に家族代表の出席をいただき、意見を言える場に行っている、意見箱の設置で意見をいただけるようにしている。ご家族への定期的や必要時の連絡、面会時に面談を行うなど、入居者・ご家族との良好な関係が築けるように努めている</p>	<p>利用者から、ホールで過ごしている時や入浴・夜勤帯に話してくれることがある。家族からは、運営推進会議の出席や面会・担当者会議で意見・要望を聞くように努めている。意見箱を置いたり、運営推進会議時に聞いている。家族からの意見で、室内に手すりの設置を行った。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月の会議に法人代表の出席をいただき、法人内の情報共有や職員の意見を聞ける場を設けている</p>	<p>職員はお互いに意見や提案を気軽に話せる雰囲気があり、日常のケアの関わりの時や、毎月の会議でも話し合っている。個人面談は年に1回行っている。出された意見は、運営に反映している。手すり設置の提案も即対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>就業年数や資格により手当がついている、会議出席への手当もある、また希望休や有給休暇も取りやすい環境にしている</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修案内などを参考に、職員の希望する研修に参加できるようにしている、事業所内研修でも、皆がそれぞれの研修を担当し発表の機会もあるようにしている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区のグループホーム協議会に参加し研修を行っている、お互いの情報がメールでやり取りできるようにしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談があつてから、幾度となく面談する機会を取るようになっている、入居前の情報収集のためほか職種からも情報を得、その方を知って面談するようになっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずはご家族の思い、今までの大変さを理解できるように聞く姿勢で臨む		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の認知・身体状況、家族の思いの確認。現状で何が本人にとって一番良いのかを見極め必要なサービスの提案ができるようにする		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを探し、掃除や洗濯など、お互いが協力している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ケアプランに家族の役割も位置づけ、役割を持ってもらう 入居させることで申し訳なさを感じるご家族もいるが、適度な距離感で家族の負担も軽くなり、大切に思っている本人が元気で笑っている姿をみてよい関係が保てるようにする</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人や親戚等が面会に訪れた際は、居室で一緒にゆっくりくつろげるよう、お茶などを提供している。入居前に暮らしていた場所などを話題に挙げる</p>	<p>コロナウイルス感染防止の為、できるだけ面会を控えている。家族の面会は健康状態を見て、5分間の面会を1階エントランスで実施する時もある。馴染みの店の買い物は家族と一緒にしている。訪問美容師や医療関係受診を楽しみにしている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士が話しやすい雰囲気になるように、職員が仲介その時の雰囲気やタイミングで無理強いはしないようにしている</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>治療のため入院が長期となり、退去された方に対して、入院先の相談員などに、状態確認を行うなどの連携を取っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いを話せない方もあるが、本人の表情や言動、家族から聞き取りをお行い本人の思いに近づけるようにしている	利用者との対話する時間を見つけて、夜勤のゆっくりしているとき等に、本人の思いに近づけるように寄り添って、希望や意向を把握するようにしている。家族からも情報を得ている。会議・申し送り・申し送りノート等で共有化を図り、本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に関わっていた介護支援専門員がいる場合は情報提供を受けるなど、生活歴や家族からの聞き取りの中から導き出す		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で記録をしっかりと、本人の思い生活のリズムを知り、職員で共有できるようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月入居者全員の情報が共有できるように、ミーティングを行っている、計画書の目標見直し時にはカンファレンスを行い検討している	毎月のミーティングで情報共有化し、本人・家族・職員等で担当者会議を開き主治医の意見を入れて、介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1回、見直しは状況が変化した時に、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にケース記録を記載、伝達事項は申し送りノートに記載し、職員が情報を共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診の際など、家族が対応ができない際は職員が対応、本人の生活スタイルに合わせ、居室の様式替えなどを行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問利用やマッサージなど、入居者が気持ちよく満足できるようにしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医を継続できるようにし、相談があれば在宅往診システムなどの紹介を行い、緊急時にも備えられ安心できるようにしている	本人及び家族の希望するかかりつけ医を受診支援している。歯科訪問も取り入れている。他科受診は、基本的に家族同行になっている。やむを得ない場合は職員が同行している。10月より24時間医療連携体制導入の計画である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤職員は全員が看護師の資格を持っている、非常勤職員にも看護師がおり、毎日のバイタルサインを含めた健康観察を実施、少しの変化でも介護職員からの報告を受け適切に対応できるようにしている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院当日、入院先の病院へ連絡、ホームでの生活の状況など情報提供を行い、可能であれば入院中面会に行き、入院中も適宜病院との連絡を行っている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時にどのように終末期を迎えたいか意向を聞き取る</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針について説明し同意を得ている。利用者の状況が変化するにつれ、家族と話し合いを行い、意向を大切にされた対応をしている。看取りの事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを職員全員が周知、対応など内部研修を実施</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回消防訓練を実施、消防機器点検も定期的に行っている、緊急連絡網に沿って連絡を行い、必要時は町内会長や民生委員の方の協力も頂ける</p>	<p>年2回消防訓練を実施している。1回は消防署立ち合いでもう1回は自主訓練である。防災設備の点検は業者が定期的に行っている。地震時は非常階段から下の駐車場におりる。水害は3階へ。町内会の協力がある。現在、車椅子使用者の避難方法を検討している。災害時は水・缶詰・カンパン・レトルト食品等、5日分程度備蓄している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>接遇について事業所内研修を行うとともに、その方の思いを優先、急がない待つ介護を心掛けている 居室に入室する際は必ずノックと声掛けを行っている</p>	<p>内部研修を行い、利用者一人ひとりの思いや暮らしを把握している。入浴は1対1で、排泄に関する声掛けや誘導はさりげなく行い、トイレはノックして等、強制や威圧感を与えない配慮をしている。気になる対応は、職員で注意喚起し、人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>一人一人に応じた声掛けを心掛け、今したいことを尊重、食事の好みも考慮</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その方にあつた1日の過ごし方を考慮し、ホールに来たくないときは居室でゆっくりと過ごし、無理して参加するのではなく、その人に合ったレクを個別に行っている</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>入居者・家族の希望で訪問カットの調整を行っている、時には今日はどの服にしようかと、入居者から相談があり、相談に乗ることもある</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時にアレルギーや好き嫌いなど嗜好を聞き取る、入居者とメニューを決めたり、内容は見て楽しめるよう彩を工夫、下膳やお膳拭きを一緒に行っている	栄養士の作成した献立で、日・祝日は利用者の希望に沿った内容である。個々の嗜好・量・食事の形態等、考慮している。誕生日にはケーキを付けたり、行事食は手作り等、希望食と楽しみな食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事摂取量のチェックを行う、日・祝日以外は栄養士による献立で調理し提供している。10時・15時・入浴後・夜間帯も水分が取れるようお茶や好きな飲み物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い歯磨き口腔ケアを行っている、必要時・希望時は訪問歯科診療をうけ口腔ケアの指導が受けられるよう調整している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁の少ない方はできるだけ昼間は布パンツでトイレで排泄を続けられるようにし、排泄の声掛けを早めに行いトイレ誘導をしている	トイレでの排泄を目指し、排泄パターンや体動・表情等、一人ひとりの特性を把握した声掛け誘導をしている。リハビリパンツから布パンツになった事例がある。羞恥心に配慮しながら、自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は消化の良いものを考慮、水分補給と運動にも心掛けられるよう声掛けを行っている、便秘傾向の方は主治医へ相談し整腸剤や緩下剤の処方を受け管理している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	意向に沿って週3回の入浴を行っている、午前中の一番風呂を望まれるため、都度お湯を張り替え入浴をしていただいている、身体状況から自立できている方は過剰な介助は行わず自分のペースで入浴していただいている	入浴は週に3回、1対1の支援をしている。必要時2人介助の時もある。本人の意向に沿って柔軟に支援している。冬は入浴剤を使用し、ゆずや菖蒲湯で楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて就寝をしていただいている、眠れない方はホールで職員と一緒に過ごすし、対話することで安心できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師居宅療養管理指導を受け、服薬の指導や相談を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>体を動かしたい方、部屋で自分の好きなように過ごしたい方、ごみ拾いやテーブルを拭くことが好きな方、様々であるが、それぞれで出来ることをして頂いている</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>現在は新型コロナウイルス感染拡大により、外出を自粛しているが、季節によって花見や近所への散歩に行ったり、3階のベランダから外の景色を眺めたりしている</p>	<p>利用者の希望や日々の状況によって、戸外に出かける機会を作り、散歩や花見に出かけている。コロナウイルスの感染防止対策で買い物や外食・家族の支援も配慮している。3階のベランダから外の風景を眺めたり外気浴をしながら交流している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>所持金がないと不安と言う入居者は少額を所持し、家族との外出時買い物を行い、自分で支払いを行うことで満足している</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を所持している入居者もいる、自分で家族や親戚に電話することができている、また娘に手紙を書きたいという入居者に、娘の住所を書く手伝いなどを行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえるよう、ひな祭り・七夕・クリスマス・お正月など、入居者と一緒に作成した作品を廊下に飾るなどしている	共有空間は、窓を開けて換気や採光を取り入れ落ち着いた雰囲気がある。テーブル・椅子・テレビ・空気清浄器等があり、季節の作品が飾ってある。洗面台も設置してある。体力維持や交流を図って室内を歩くように工夫している。食事席のみ決めて、それ以外は自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ決まった席につき、同じテーブルの入居者と楽しそうに会話していることが多い		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人が大事にしていたものや、興味のある物などの持ち込みを家族にお願いしている、ベッドや家具の配置も入居者の身体機能に配慮し設置している	ベッド・椅子・タンス等を設置している。テーブル・椅子・写真・仏壇の持ち込みで、本人が好む居室で過ごしている。掃除や片づけは、職員に手伝ってもらい一緒にしている利用者もあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、本人・家族の了承を得て、名前を書き、入居者が自室が分からない場合は、自分の部屋だとわかるような目印を作っている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない